

## シクラメンの高冷地育苗について

東 札 一 郎 ・ 川 田 計

(大分県温泉熱利用農業研究所)

HIGASHI, R., KAWATA, K.

Studies on the Highlands Nursing of Cyclamen persicum Mill.

当所（標高 170m）における育苗に対し当所と飯田（標高 830m）を結んだ高冷地育苗が生育におよぼす影響を山上げ、山下げ両時期を通して比較検討し、栽培改善をはかろうとした。

**材料および方法** 品種はボンファイヤーを供試し、試験区は山上げ期を6月上旬および6月下旬、山下げ期を10月上、中、下旬の3回とした。耕種概要は播種期11月10日、3月12日魚箱移植、5月4日9cm鉢、8月23日12cm鉢に鉢上げした。区制は1Plot 10鉢の3反復とした。

**結果および考察** 全期間の生育経過について高冷地育苗は山上げ当初は低温のため生育が緩慢であるが温度が高くなるにしたがい生育は順調となり、山下げ時期の10月には開花し始めた。これに比べ平地育苗では7～8月の高温期には緩慢であったが6月および10月に生育は順調となった。葉数の増加は高冷地育苗で6月上旬山上げが8月における増加数が少く、6～7月および9月に増加した。6月下旬山上げについては平均的増加を示した。平地育苗は高冷地に比べや、少い傾向を示したが10月に入って温度が低下するにしたがい増加した。

球径は高冷地が平地に比べ肥大はよく平地に比べ0.7cm大きくなっていた。

高冷地では7月上旬に蕾の発生をみ、この蕾が順調に発達したのに対し平地では8月上旬に出蕾を認

第1表 開 花 率 調 査

区	山上げ期	山下げ期	1967年		1968年	
			10月31日	12月20日	10月31日	12月20日
A 1	6月4日	9月30日	22%	78%	30%	100%
A 2		10月15日	40	100	20	100
A 3		10月30日	10	70	10	100
B 1	6月23日	9月30日	22	100	50	100
B 2		10月15日	22	100	30	100
B 3		10月30日	0	88	20	100
C		当 所	0	38	0	70.6

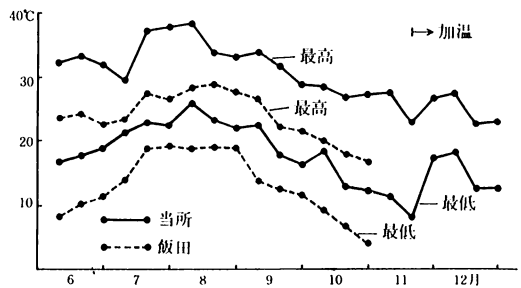
めたが9月上旬頃これらはほとんど枯死していた。

開花は高冷地育苗が早く、12月20日にはいずれも100%開花した。1967年の結果ではPlotにより多少の差違があるが12月20日で70～100%が開花した。山上げ、山下げ時期別では6月23日山上げ9月30日山下げが10月末に50%の開花率を示し発病株はなく、ついで6月4日山上げ9月30日山下げが10月末に30%開花し鉢当り開花数も多かった。これに対し平地育苗は12月20日に70.6%（1967年38%）の開花率を示したが発病率が高くなっていた。株張りは平地が高冷地に比べ勝ったが1968年は夏季冷涼であったためと思われる。6月4日山上げ10月30日山下げ、6月23日山上げ10月30日山下げが10月末の開花率が低いのは山下げ期が晩くなった、めと思われる。

以上の結果クリスマスおよび年末出荷をするには、山上げ時期は6月中、下旬、山下げ時期は10月上旬に行うのが最も効果的と考える。

第2表 鉢当り開花数・越冬率

区	鉢当り開花数		越冬率	
	1967年	1968年	1967年	1968年
A 1	3.1本	4.1本	90%	90%
A 2	4.8	3.8	100	80
A 3	3.7	3.7	100	80
B 1	4.2	3.9	90	100
B 2	3.4	3.5	90	90
B 3	3.7	3.8	80	90
C	2.3	3.1	80	65



第1図 旬別温度変化（1967、1968平均）